

2012 年度 建設マネジメント委員会

研究成果発表会及び表彰式

主 催:土木学会 建設マネジメント委員会

日 時:平成 24 年8月9日(木) 13:00~17:50

場 所:土木学会講堂 新宿区四谷 1 丁目(外濠公園内)TEL 03-3355-3559

〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目外濠公園内

(JR「四ツ谷」駅の四ツ谷口より徒歩 3 分、地下鉄南北線「四ツ谷」駅の 3 番出口より徒歩 3 分、地下鉄丸の内線「四ツ谷」駅より徒歩 5 分)(<http://www.jsce.or.jp/map/frameset.htm> にて地図を入手できます。)

参加費:無料

申 込:下記のHPより「申込画面」へすすみ、お申し込み下さい

(<http://www.jsce.or.jp/event/active/information.asp> ⇒ 行事コード:45205)

13:00~13:10

開会の挨拶 :建設マネジメント委員会 小澤一雅 委員長

【表彰式】

13:10~13:20

表彰発表 :表彰小委員会 三百田敏夫 小委員長

13:20~13:25

表彰状授与 :建設マネジメント委員会 小澤一雅 委員長

13:25~13:35

論文賞受賞論文概要紹介 :受賞者

13:35~14:00

グッド・プラクティス賞概要紹介 :表彰小委員会

14:00

閉会

14:00~14:15

昼休み

【研究小委員会の部】

14:15～14:55	インフラ関連事業への適切な PFI/PPP 導入に向けて 一わが国 PFI 事業におけるベストパートナーシップガイドラインの作成を中心に
<p>当研究小委員会では(1)リスクを考慮した財務・経済・ファイナンス総括表による分析、(2) ベストパートナーシップガイドラインの作成、(3)市域道路ネットワークの修繕・維持管理 PFI 事業の具体化の3テーマに関して部会を設置して調査研究活動を実施してきた。(その他に震災関連での土木学会提言を行っている。)</p> <p>今回の発表会ではこれらの各テーマに関する成果の概要をまず紹介し、その中で、特に(2)のテーマを重点的に報告するものである。</p> <p>日本の PFI 事業において発生している紛争問題に関して、①それらの紛争が発生している原因、②紛争が発生しないための防止策、③紛争が発生した場合の解決策、④長期の運営段階でその解決策を形骸化させないための方策を整理・検討し、ガイドラインの作成をワーキンググループにて試みている。当ガイドラインでは、紛争の未然防止のための方策について、可能性調査段階～公募・契約段階～設計施工維持管理段階～契約満了時段階に分けてキーワードを抽出し、またベストパートナーシップに配慮した事業者選定方法についても言及を行っている。</p>	
インフラ PFI・PPP 研究小委員会 (第1種継続)	渡会 英明 (建設技術研究所)

14:55～15:25	意識調査によるリスク管理型土地利用の適用可能性に関する検討
<p>日本では今後、顕在化の懸念されるブラウンフィールド問題の解決に向けて、土壤汚染サイトの有効な利用方法に関する住民の意識調査を行った。調査方法は便宜的抽出によるインターネット調査で、定性的な評価と、取り組むべき課題を検討して。得られた結果としては、土壤汚染が存在している状況での土地利用について半数以上が容認しており、その形態には、駐車場、倉庫、事務所が多く、住宅は少なかった。また、土壤汚染のリスク認識は十分ではないことや、海外のリスク管理型を導入した土壤汚染施策を知っている層ではリスクコミュニケーションによる土壤汚染問題の解決についての否定的印象が相対的に少ないことから、土壤汚染のリスクについての啓蒙活動の取組には再考を要すると考える。</p>	
環境修復事業マネジメント研究小委員会 (第2種継続)	田中 宏幸 (株式会社鴻池組)

15:25～15:45	土木技術者のための原価管理 2011 年改訂版発刊によせて
<p>当小委員会は2001年9月に「土木技術者のための原価管理」を発刊した。この本は建設会社の若手講習会のテキストとして使用されるなど、多くの読者を獲得し、増刷を重ねてきた。このほど初版から10年が経過し、総合評価落札方式の導入など状況が大きく変化したため、全面的に内容を見直した「2011年改訂版」を刊行した次第である。</p> <p>現在ゼネコンの収益状況は厳しく、原価管理の重要性は増大している。また実務においては、従来にも増して関係する法律や制度への幅広い理解が必要となってきた。この改訂版は状況の変化を鑑み、若手技術者だけでなく、広く建設業に携わる者の業務に役立つように編集されたものである。</p> <p>発表では特に書籍の改訂した中心となった点を述べ、併せて若手教育の課題について述べることにする。</p>	
原価管理研究小委員会 (第2種継続)	松岡 数憲 (株式会社フジタ)

15:45~16:00

休 憩

16:00~16:20

技術公務員の「役割と責務」および「育成と評価」に関する研究

- ①昨年 12 月に行った全国都道府県、政令指定都市を対象とした、“技術公務員の評価についてのアンケート調査” から、評価制度の現状を整理した。その結果、得られた知見を紹介する。
- ②技術公務員の評価指標を確立するため、技術公務員に求められる技術力を体系的に整理する検討の中間報告を行う。このバックグラウンドとなる建設マネジメントの体系化について知見を紹介する。
- ③当研究小委員会の活動イベント、“サマーセミナー”の概要を紹介する。

技術公務員の評価・育成に関する研究小委員会（第 2 種継続）

野口 好夫（名古屋工業大学）

16:20~16:50

地方都市における持続可能なまちづくりに関する実証的研究 –ハイブリッド型コンパクトシティ建設と地域マネジメントセンター(RMC)–

滋賀県湖南市を対象とした地域マネジメント機能を活用した「持続可能なまちづくり」の事業を推進する構想計画が昨年度承認された。今年度は、(社)地域マネジメントセンター(RMC)の研究部門と調査検討部門を立命館大学・湖南市役所に設置・連繋し、より具体的な都市・地域整備事業の展開に関する基礎研究を行うとともに、「持続可能なまちづくり・地域マネジメントの方法論研究」として、

- ①プロジェクト構想の提案に対するモニタリング調査結果分析と情報化
- ②ハイブリッド型コンパクトシティの段階的建設構想の検討
- ③地域マネジメントセンター(RMC)を中心とする地域参加型プロジェクトマネジメントシステムの検討

等々を、住民・産・官・学のコミュニケーション活動として充実させながら実施する。本講演では、これらの内容を、具体的検討内容に基づき論述する。

地域マネジメント研究小委員会（第 2 種継続）

春名 攻（立命館大学）

山田 幸一郎（CAP）

16:50~17:20

「失敗の本質」と海外土木事業とプロジェクトマネジメント

「失敗の本質－日本軍の組織論的研究」（戸部良一・野中郁次郎他著、1984年5月、ダイヤモンド社発行）が、最近また注目を浴びており、現在の日本の企業、組織の「失敗の本質」は、第二次世界大戦の日本軍のそれと共通しているのではないかという検証がいろいろ行われている。

これらの検証を我が国の海外土木事業に当てはめてみて比較し、戦略性、組織運営、リーダーシップ、型の伝承、日本的メンタリティについて整理し、さらにプロジェクトマネジメントの観点からの考察も加味し、これからの海外土木事業の在り方について考察をする。

新しいビジネスモデル研究小委員会（第 3 種継続）

中山 等（鹿島建設株式会社）

17:20~17:40

CM業務の評価に関する検討ーリスクによる評価ー

わが国における土木関連のCM業務発注の採用事例も10件を超え、CMの効果が少しずつ公表されつつある。これらのCM業務発注事例の中には、さまざまな課題とその対応、ならびに導入の効果が凝縮されている。ただしその効果については、これまでは関係者へのヒアリングに基づく定性的な評価にとどまっているといえよう。そこで、CMRが業務を適切に遂行することで未然に防止できたであろう損失を抽出し、その損失を定量的に評価することでCM方式導入の定量的評価につなげることを試みた。今回の発表では、事例として3事例（整備局発注1事例、地方自治体発注2事例）を取り上げて上記の観点でまとめた。

実践的CM研究小
委員会（第3種継
続）

重松英造（建設技術研究所）
鈴木顕彰（前田建設工業）

17:40~17:50

閉会の挨拶：運営小委員会 堀田昌英 小委員長



■問い合わせ

：公益社団法人 土木学会
研究事業課 建設マネジメント委員会
担当 竹原 優子

〒160-0004 東京都新宿区四谷1丁目外濠公園内
TEL: 03-3355-3559
E-mail: takehara@jsce.or.jp


The Construction Management Committee
建設マネジメント委員会